

第4回玉名市総合計画策定審議会 議事録

日時	令和8年2月24日(火)9:30~
会場	玉名市役所4階 会議室
参加者	出席：入江委員、上村委員、大野委員、小山委員、後藤委員、齊土委員、坂口委員、坂梨委員、澤田委員、杉本委員、高田委員、田畑委員、津田委員、永田委員、中野委員、中山委員、藤森委員、本田委員、丸山委員、山崎委員、渡邊委員 欠席：崎山委員、橋本委員、山本委員

1. 開会

2. 会長挨拶

会 長：第3回に引き続き、基本構想についての審議となる。

3. 議題

事務局：澤田会長に議事の進行をお願いする。

会 長：委員会規則に沿って、本会議は原則公開となっている。

(1) 基本構想（案）について

〈事務局より資料1（市の将来像（都市像）、基本目標）の説明〉

会 長：将来像及び基本目標について、説明があった。何か質問はあるか。

委 員：全体として、前回より基本目標の文章が長くなっている。様々な要望を踏まえてのことであるかもしれないが、基本目標6にもある選択と集中という方針と相反すると感じる。人口も減っていく中で、何かを削っていくことも必然ではないかと思う。

事務局：総合計画の性質上、総花的になるものであり、基本目標の概要の段階では削っていくことは難しい部分もある。次年度、基本計画内で施策内容を検討していく中で、選択と集中を踏まえ、これまでより施策の強弱を見せていけたらと思う。

会 長：基本目標4について、情報基盤の話も入ってくるのか。

事務局：そうである。ただし、市主導によるハード整備はおおむね完了していることから、次世代の情報化が進んでいく中でも地域格差が生まれないよう、民間整備の誘導を促していく内容として記載をしているところである。

会 長：では、基本目標4は市全体での情報基盤の整備、基本目標6は行政におけるDX化の推進ということであるか。

事務局：その通り。

委 員：「安心と笑顔が未来へつながる」という将来像であるが、基本目標において、安

心は想定できる文言があるが、笑顔につながるものは見当たらないと感じる。政策目標トータルとしての目標であることは理解しているが、どの政策から笑顔につながるかが見えづらいと感じる。

会 長：この点については、事務局と検討したいと思う。

会 長：全体の施策体系図は作っていくことになるか。

事務局：前期基本計画の冒頭等で総合戦略の落とし込みも含め、示していくことになる想定している。

会 長：この体系ができてくれば、より具体的な内容が見えてくると思う。

〈事務局より資料1（目標人口と土地利用方針）、資料2の説明〉

会 長：目標人口と土地利用方針について、説明があった。

委 員：目標人口における独自の将来人口推計について、条件で市民希望出生率をそのまま採用してよいのか。単なる希望であれば構わないが、厳しい局面になった場合に困ると思う。少し厳しめのほうがいいかと思う。

事務局：この目標人口については、今回改訂予定の人口ビジョンを踏まえ作成しているところである。国の推計があるのは承知しているが、計画として市民が望んでいる数値に対し、施策効果を積み上げていき、そこを目指すということで目標人口を設定している。市として、自然動態と社会動態を両面で改善していくことが重要であると考えている。そのため、調査結果として出た市民希望出生率を採用すべきと考えたためである。

委 員：では、現行のビジョンにおいては希望出生率をとっているのか。

事務局：とっている。

委 員：であれば、その値と実際の数値の差異を反映すべきと思う。

事務局：今回算出された希望出生率 1.81 は前回の 1.77 からは微増であり、国の 1.8 とも同等である。

会 長：委員のご指摘としては、きちんと厳しい状況を見込んだ上で目標を設定すべきというところだと思う。ただし、希望出生率からの切り下げに関しては、数値の根拠が難しく目標としてはこのまませざるを得ないかと思う。そのため、この希望出生率の達成に向け、どのように施策を打ち出していくかが大事である。関係部署と共有、検討を進めてもらいたい。

委 員：外国人の動態をどのように盛り込んでいるのか。近隣市町の動向を鑑みると社会増につながることも考えられる。また、まちなか未来図に基づくまちづくりを進めていった場合の影響も加味できているのか。

事務局：外国人については、そこを見込んだ上での目標人口としている。まちなか未来図については、具体的な盛り込みはないところである。

会 長：外国人について、熊本県全体で社会増となっている大きな要因である。その点を踏まえると、多文化共生の施策は人口減少対策において重要になると思う。

委員：選択と集中が大事であると思うが、まちなか未来図など中心拠点が目立っている印象。人口減が進んでいく中で拠点形成が重要なのは分かるが、地域拠点という言葉もあり、コンパクトシティの概念から総合計画には盛り込んでいいのではないか。また、この考え方に基づくと基本目標4の概要文では、まちなか未来図を中心というニュアンスの文章とすべきではないか。今後、拠点の集積を図る中では、地域拠点も重要となってくると思う。

事務局：現状では、まちなか未来図の着実な推進が重要な施策となることから中心拠点についての内容が多くなっている。市としても、中心拠点の活性化を域外へ伝播させていくことが重要であると考えており、内容をより精査していきたい。

委員：現行の後期計画では、土地利用方針について、ほぼ記載がないが、今回は拡充していくところで具体的内容を記載しているのか。

事務局：第2期の前期計画では今回と同様に記載しているところである。今回はそれに加え、まちなか未来図の内容も盛り込んでいるところである。

委員：資料1、P.11の中で「将来像をみんなで描き」とある。みんなとは誰だろうとわからない様に修正すべきではないか。

事務局：検討する。

委員：まちなか未来図において、築山地区はまちなかエリアに該当していないが、個人の肌感覚としては築山地区は人口が増加していると感じる。こういった流れも加味した設定が必要ではないかと思う。

事務局：まちなかエリアについては、別途作成されている「まちなか未来図」からの抜粋である。総合計画における示し方を担当部署と確認の上、検討する。

会長：玉名市の地方創生に関する別の会議であった意見だが、玉名市は10代後半の女性について、高校・大学の入学に伴う転入が多くみられる。こうしたアドバンテージを活かせるよう、大学卒業後に玉名市内に就職、もしくは市外で仕事をしながら市内に居住してもらえるよう、施策を検討していただきたい。

会長：今後の基本構想の修正については、事務局と会長、副会長に一任いただきたい。

各委員：異議なし。

(2) その他

事務局：今後の修正については、会長、副会長に確認の上、進めていく。委員にも最終版を送付させていただく。来年度については、基本計画の審議となるが、その基本計画の検討の中で市民ワークショップを実施する予定である。市民への募集だけでは人数確保が難しい場合は、各委員の所属組織にも依頼することになると思うが、その際は、協力をお願いしたい。

4. 閉会